

第4回検討会の議事概要

1. 第4回検討会の主な内容

六甲アイランドにおけるインキュベーションオフィス等の現状と今後の商業機能の可能性について報告したうえで、これまで議論してきたまちづくり戦略やアンケート結果を踏まえた地域ニーズを再整理のうえ、今後目指すべき取り組みの方向性（案）について意見交換を行った。

○まちづくり戦略を踏まえた今後の方向性について

【主な意見】

（住まう目的）

- ・六甲アイランドは、住みやすい、住むのに十分という部分では他地域に勝るといのが住民の感覚。そういった感覚に基づいて考えた際に、六甲アイランドがどこにでもあるようなまちになっていいかどうか。例えばこだわりのお店や小ぶりの専門店を集めるなど、きらりと光るような特色を打ち出していく考え方もあるのではないか。
- ・島内の店舗は入れ替わりが激しく、住民の声を聞いて開店したお店であってもなかなか地域で消費されず困っているのが現状。また働き手の確保にも困っている。実験的にお店を構えられ、また店舗販売だけではなく、裏でネット販売なども活用していくような仕組みづくりができれば、長くお店が続けられるかもしれない。
- ・P&Gが移転した後、周辺の飲食店の空きが一定期間続いた。現在は新たな事業者も入居しつつあり、昼間人口も増え、売上も戻ってきたと聞く。六甲アイランドには多くの事業ビルがあり空き床もあるので、空き床を埋める努力をして昼間人口を増やしていくことが、飲食店等の立地にも繋がっていく。
- ・未就学を含めた小さい子供が多いことが六甲アイランドの最大の強みであり、子育て世帯に対して優しいまちづくりに一番力を入れるべき。
- ・六甲アイランドは子育てし易いまちであり、入居者も親子で入ってくる事が多い。親・子・孫がセットで居住すれはうまく循環していく。
- ・小学校、中学校の評判は重要。学校の魅力を高めていくことが子育て世代を呼び込む方策として重要ではないか。
- ・住民が自分たちのまちを作り上げるというコンセプトが一番大事。住民自らでお店を育てるという気持ちになって、消費することが大事。
- ・住宅供給に関しては、新規供給をずっと続けられる訳ではなく、空き家も出て

きており世代交代も始まっている。その際、空き家がきちんとマーケットに戻ることが大事であり、今後もマーケットとして付加価値を高めていくことが重要である。

（集う目的）

- ・六甲アイランドの都市機能用地周辺の企業では、外国人の労働者が研修で働くことも多いと聞いており、六甲アイランドは広く外国人が集えるまちだと思う。
- ・外国人と地域との交流について、これまでの昔のイメージにとらわれることなく、いろいろな視点に立って考えていくべき。
- ・高齢者も一日中楽しめるような温浴施設などがあるミニシアワセの村のような施設があればいい。何か魅力的な施設で集客できればいいと思う。
- ・六甲アイランドの商業施設は、住民のニーズが基本になるが、島内の大学生があまり滞留していない。うまく学生達を取り込む方策を考えるべき。

（働く目的）

- ・島内には比較的主婦層が多く、また、大学の学生や留学生もいるので、個別のニーズをうまく組み合わせれば、働き手の確保にもつながるのではないかな。
- ・これから少子高齢化が目に見えているので、六甲アイランドでも留学生等の外国人の方々が働ける場として広く受け入れるべきではないかな。

（その他、全般的な意見）

- ・六甲アイランドは、人口を呼び戻すための神戸の基点になる可能性があると思う。島内に住む際の選択肢を考えるうえで、最も有効な方策を考えるべき。
- ・従来のように大きな建物を作って賑わいを作っていくというのではなく、六甲アイランドの高いブランド力を活かしてオペレーションの部分に費用をかけて情報発信していくことが重要ではないかな。
- ・これまでのワークライフバランスの実験的な取組みも踏まえ、働くことと住まうことを繋ぎながら、そこに商業がサポートしていくような考え方がいいのではないかな。
- ・六甲アイランドの住み手のターゲットとして、神戸市民へのメッセージではなく、大阪に住む人など対外的に発信し、神戸に人を呼び込むことが重要だ。
- ・既存ビルの空き床を埋めていく話をするのか、人口を増やす方策なのか、またそういった環境を整える話をするのか、より具体的な話をしてほしい。
- ・これからマーケットが大きく変化していくなかで、今後のワークスタイル、ラ

イフスタイルも変わっていく。そうしたものを感度よく捉え、良い方向に変化していけるような柔軟性あるまちづくりが重要である。